特定非営利活動法人 農スクール

事業実施期間令和３年度～令和４年度
神奈川県

令和４年度
農業労働力確保
支援事業

都市部に住む引きこもり状態の方への研修を行う＋農業での短期的な労働需要を調査する。
それらにより、引きこもり状態の方が農業に短期的に就労できる形を地域に作る。

事業実施主体構成員

特定非営利活動法人 農スクール

実績値（目標値）

引きこもり状態や働きづらさを抱えた状態から、地域の農業者の元に、アルバイトや正社員として通うになったり、農業大学校への進学、援農など農業に関わる状態になる方：９名　（目標値：10名）
尚、令和５年３月時点でも就農等に向けた伴走支援を継続中

令和４年度取組み内容

今年度の取組み内容

ア　労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

令和３年度に藤沢市やその近辺の農業者125名を対象に、地域の労働力に関するアンケート調査を実施した。また、同じく藤沢市及びその近辺の農業者３０名を対象に追加でのヒアリング調査を実施した。今年度は、調査から明らかになった「コミュニケーション」「モチベーション」「問題解決能力」「身体能力&農業スキル」といった農業者が人を雇用する際に重要視するポイントを踏まえた農業研修プログラムの実装を行った。また、調査から「最低賃金を支払うこと」が農業者が人の雇用を躊躇する際の大きなハードルであったことから、「賃金は労働による経済効果の対価である」という意識をプログラムに組み込み、賃金を支払う農業者に貢献できる人材育成を目指した。
※調査内容の詳細は別紙P2「令和３年度『地域の労働力状況の調査』結果」を参照

農業研修プログラムの基礎編（農家実習編）では、調査の中で人の雇用の可能性のある農業者・農業法人を選定し、研修の受け入れを依頼した。（１０件）

イ　労働力の確保・育成（情報発信等）

令和３年度にHP、Facebook、google広告等で農業研修プログラムへの参加者を募集し、２５名が今年度のプログラムに応募・参加をした。

今年度は、農業研修プログラムの実施内容（農家・農業法人での実習のうち８回）をFacebookにて投稿し、引きこもり等の働きづらさを抱えた方々に向けた情報発信を行った。また、次年度のプログラムへの参加者をHP及びFacebookにて募集をし、説明会を開催している。

【来年度プログラムに関する説明会と応募実績（3月1日時点）】
説明会申し込み件数：７件
説明会実施回数：2回(７名参加) / 全３回中
応募：１件　成立：１件

今年度の取組み内容
ウ　労働力等のマッチング及びデーターベース化
元気高齢者の地域活動をサポートするウェブプラットフォームであるGBER(Gathering Brisk Elderly in the Region) の地域農業版プラットフォームの開発を行った（業務委託）。具体的には、農業界で労働力に求められる能力やマインドを令和３年度に実施した農業者へのアンケート（125件）及びヒアリング(30件)内容から抽出し、農スクールと東京大学の開発者での打ち合わせを行い、「農業スキル」、「仕事の丁寧さ」、「意欲、雰囲気」の３項目を５段階で評価し、労働力に記録として蓄積できる仕組みを構築した。労働力を雇う農業経営者にとって、労働力がどのような農園でどのような評価を得てきているのかが蓄積された情報から読み取れるため、任せる仕事などを想像しやすく、雇用主と労働力のミスマッチが従来よりも防ぎやすいマッチングシステム（データベース）となった。 ９月以降の農業研修プログラム（農家・農業法人での研修）において、試験的に運用を行い労働力のデータベース化を行った。
エ　農業の「働き方改革」への取組み（課題調査及びセミナー開催等）
令和３年度に実施した農業者３０名へのヒアリング調査では、神奈川県内において無償の援農ボランティアによって労働力が支えられている部分も多く、ボランティア（無償）と労働（労働基準法管轄）との境目が曖昧であり、構造として賃金の引き上げを目指す場合において、その境目の情報整理の必要性が浮かび上がってきた。 また、そのような調査状況を踏まえ今年度に実施をした農業研修プログラムにおいては、参加者が農業で「働くこと」を目指しているのか、援農などで農業に「関わること」を目的にしているのかの線引きを明確にした。特に農業で「働くこと」を目指してる参加者に対し、「ア」で述べたような雇用する農業者に貢献できるような人材育成を心掛けたと同時に、参加者自身が雇用就農と援農の違いを認識し、望まない援農ボランティア状態に陥らないような注意喚起を行った。
オ　他産地・他産業との連携による労働力確保
全国３８０産地、およそ２０００名の農業者がつくった農産物を取り扱う会社の取締会にて、農スクールの取り組みについて紹介をした。 その中で、東北や九州の農業者からも深刻な現場の人手不足の声があり、農スクールからも農業で働く人材を是非紹介してほしいという声をいただいた。 今後は、藤沢地区にとどまらない全国の生産地と連携した労働力確保のモデルを構築する。

今年度の取組み内容

カ　受入段階の計画（中核人材の確保・関係者の理解促進の取組み）

キ　就農支援の計画（農業体験、研修、受入農業者に対する研修の実施）

・4月から「農業研修プログラム（導入編）」を開講
開講日（全１０回）：4月12日、4月19日、5月10日、5月17日、5月24日、6月14日、6月21日、7月12日、7月19日、7月26日
参加人数（延べ）：２２８名
内容：自社圃場において、畑の土づくり、除草作業、野菜の植え付け、管理、収穫等を２クラスに分けて実施した（詳細は別紙P２「農業研修プログラム（導入編）の実施内容　全１０回を参考）。導入編では、およそ週に一度のペースで畑での農作業を行い、心身のバランスを整えたり、基礎的な農業スキルの習得を行った。また、プログラム実施中に個別の面談時間を設けることで、受講生それぞれに寄り添ったプログラムを運営した。全１０回の中で受講生は自身の農業という仕事への適正を測り、修了後は基礎編進みより農業の経験や理解を深める方、援農に取り組む方、農業アルバイト等へ挑戦する方、また他産業への就職に挑戦する方など、それぞれの進路を選択した。

・8月から「農業研修プログラム（基礎編）」を開講
開講日（全１０件の農家・農業法人）：8月9日、8月 23日、9月6日、9月20日、9月 27日、10月11日、10月18日、11月3日、11月8日、11月29日
参加人数（延べ）：６３名
内容：導入編修了者のうち７名が基礎編にすすみ、個人経営から農業法人に至るまでの幅広い層の地域の農業者のもとで実践的な農業研修を実施した（詳細は別紙P３「農業研修プログラム（基礎編）の実施内容　全１０回を参考）。
また、７名の農業経営者の方々から、「どの時期に、どの様な仕事をしてくれる人が必要であるか」や「どのような人に働いてもらいたいか」逆に「どの様な人とは一緒に働きたくないか」などの就農に向けたお話をしていただく時間をつくった。これらの経験の中で、農業で働くといっても幅広い選択肢があり、自分にはどのような働き方が合っているのかを受講生自身が理解をし、それぞれが就農に向けたアクションを取れる状態になった。

ク　定着支援の計画（中間就労の仕組み作り・就農、定着支援に向けたサポート）

・交流会の開催
開催日：11月3日（農業研修プログラム（基礎編）第８回目）
参加人数：７名
内容：雇用就農者２名、独立就農者１名をお呼びして、就農希望のプログラム受講生との交流会を実施した。受講生から雇用就農や独立就農の当事者に対して、直接質問や相談をする機会をつくることで、普段はなかなか聞くことのできない、現場で働く人の実際の声を聞くことができ、メリット・デメリット両面から現場への理解を深めることができた。
・就農へ向けた個別面談（対面式）を開催
開催日：12月6日、12月13日、12月20日、1月10日、2月21日
参加人数：５名
内容：就農へ向けて受講生それぞれの希望や特性に沿った個別面談を実施した。受講生によって、雇用就農（アルバイト含む）、農業インターン、援農など希望する進路がさまざまであり、それぞれに合わせた伴走支援を実施した。　※個別面談（対面式）の他、電話やメールでの伴走支援も同時に実施した。

特定非営利活動法人 農スクール

事業実施期間令和３年度～令和４年度
神奈川県

令和４年度
農業労働力確保
支援事業

本事業取組みにおける成果項目

１.受講生の進路状況
農業アルバイト２名（うち１名は短期雇用）、農業インターン１名、援農６名、他産業への就職３名

※令和5年3月現在も引き続き就農等へ向けたサポートを継続中

２.ステップアップ手帳の作成
雇用主の農業者等が労働力に求めるスキルやマインドを自主的に整理、醸成できる手帳型の冊子を作成した。

３.事業報告冊子の作成
令和４年度の事業内容をまとめた事業報告書（全28P）を作成した。働きづらさを抱えた方々の雇用就農へ向けた川上から川下までの伴走支援について、本年度の事例を踏まえながらまとめてあり、本事業を経て得られた知見や経験をモデルとして横展開を目指す際に有効的に使用することができる。

※項目２、３に関して、同地区での理解促進や他地区での雇用就農者創出を狙い、農業者、行政組織、同様の活動をしている（しようとしている）団体等へ配布した。

次年度以降の取組み内容

１.農業研修プログラム(導入編・基礎編)の実施
今年度に引き続き農業研修プログラムを実施し、継続的に働きづらさを抱える方々の就農支援を行う。

２.複数拠点普及を見据えたモデル構築
藤沢地区での就農支援プログラムの構築・実践を日本全国さまざまな拠点で提供できることを目指したモデル構築を行う。具体的には、スタッフ育成用教材の作成、組織運営マニュアルの作成を行い全国複数拠点でのプログラム運営に対応可能な組織体制を整える。

３.スタッフ育成用教材作成
ノウハウとして蓄積してきた受講生のやる気を維持させながら農業スキルを身につけることができる環境づくりやコーチとしての活動のポイントをスタッフ育成用教材として落とし込み、プログラムの要とも言えるスタッフの育成を円滑に進めるための道標を立てる。

４.組織運営マニュアルの作成
プログラム受講生の募集、プログラムの提供、就農サポートなどのステップごとに運営が実行及び注意すべきことをまとめ、マニュアルに落とし込むことで、プログラムの円滑な運営と成果の最大化につなげる。

＜社会的背景と農スクールの取り組み＞

背景①
農業界の人手不足
→販売農家戸数の減少
→新規雇用就農者の減少

背景②
引きこもり人口の増加
→全国には引きこもり状態の人が115万人存在する

～農スクールの取り組み～

働けない状態の人を**日本の農業界を支える人材へと育成**することで
農業の担い手不足とひきこもり人口の増加、２つの問題にアプローチ

農業界に貢献する人材

自社農場で独自の農業プログラムを提供
・自分の長所の発見
・自分への自信の回復

働けない状態

STEP ①
農業プログラム

STEP ②
農家インターン

実践的な農業体験
「適材適所」の発見

令和３年度「地域の労働力状況の調査」結果

方法：インタビュー形式のヒアリング調査
対象者：藤沢市およびその近辺で農業を営む農業者30名

Q. 最低賃金を支払って人を雇いたいと思いますか？

雇いたいと思う に関するコメント	**雇いたいと思わない** に関するコメント
・１人で２５０万稼ぐよりも、２人で５００万稼ぐ方が、将来的に持続可能性があると感じるため ・これまで働いていたパートさんの入れ替えがある可能性があるため ・常時雇用は現状難しいが、スポットできてくれる形だとありがたい ・規模が大きくなり、自分一人では回しきれない	・所属している団体が家族経営が基本の団体でもあるため、基本的に雇用は考えていない ・労力は多くなる一方で収益はあまり増加しない可能性もあるため、労働力が機能しない場合は、先行投資になるためリスクが大きい ・他の農家さんでパートさんを雇っている人のところの様子を見ると、パートさんの動きが遅すぎて、正直雇う気になれない ・新たに仕事を作る必要があり、難しさがある（もし新たな人を雇った上で、仕事をこなせないとなると、多大なリスクになる可能性がある。） ・通常の就労支援団体からのアルバイトであると、鎌や鍬の使い方から教えなくてはいけないため、少々手間がかかるのは事実

明らかになったこと

・人を雇いたいと思う経営者は**雇用することで規模拡大や持続可能性を高めることができる**と考えている

・人を雇いたいと思わない経営者は**人を雇うことのメリットよりも人件費や教育コストのデメリットを大きく感じる**傾向がある

Q.　正社員を雇用する際、人材に望む能力・意識・勤務姿勢はなんですか？

コミュニケーション	**モチベーション**	**問題解決能力**	**身体能力&スキル**
・常識的な礼儀やコミュニケーション能力 ・信頼できる人であること ・元気な挨拶ができる ・協調性がある人	・農園で扱う栽培品目が好きであること ・長く仕事を継続してくれること ・農業という仕事を通して実現したいことを考え持っているこ	・問題発見、問題解決能力（改善ポイントがわかる様な観察力と、それを議論しながら解決、改善していける能力があること）	・健康的で、普段から体を動かしても問題がない人 ・運転が出来て力がある人

・人材に望む能力は経営者により異なる

・**農業スキルは即戦力**として判断される

・**他者に貢献しようという気持ち**を持った人材が求められる

農業研修プログラム（導入編）の実施内容　全１０回

【1 回目】

日時：2022 年 4 月 12 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：15 名（受講生 12 名 / スタッフ 3 名）
クラス B 参加人数：18 名（受講生 13 名 / スタッフ 5 名）
総計 33 名
報告：畑のなかで、オリエンテーションをひと通り行いました。本日の農作業は「草取り」でした。イネ科の草取りにも挑戦しました。虫が苦手だったがテントウムシを見つけて心が和んだ、など、土に触れることで気持ちの変化があったことが伺えました。

【2 回目】

日時：2022 年 4 月 19 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：14 名 (受講生 11 名 / スタッフ 3 名)
クラス B 参加人数：18 名 (受講生 13 名 / スタッフ 5 名)
総計 32 名
報告：本日の農作業は「天地返し・畝立て」でした。道具は鍬、木片、支柱、麻ひもを使用しました。「体力不足を実感した」「黙々と作業するのは意外と苦痛ではなかった」など、力仕事をやり終えた後の疲労感と達成感を表現した言葉が多く聞かれました。

【3 回目】

日時：2022 年 5 月 10 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：14 名 (受講生 11 名 / スタッフ 3 名)
クラス B 参加人数：17 名 (受講生 12 名 / スタッフ 5 名)
総計 31 名
報告：本日の農作業は「夏野菜の定植」でした。今回はトマト、ナス、ピーマン、バジルの苗を定植しました。一人ずつ苗を持ち、畝に並べていきました。最後にイネ科の雑草を株間に敷いていきました。次回に向けてオクラの種をまく区画の整備を行いました。

【4 回目】

日時：2022 年 5 月 17 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：13 名 (受講生 10 名 / スタッフ 3 名)
クラス B 参加人数：18 名 (受講生 13 名 / スタッフ 5 名)
総計 31 名
報告：先週と同様、草取りを行いました。その後、オクラの種まき、赤いオクラと緑のオクラの 2 つの品種を植えていきました。また、「トマトの支柱立て」を行いました。「畑らしくなってきたので次週も楽しみ」など、前向きな感想が多く聞かれました。

【5 回目】

日時：2022 年 5 月 24 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：14 名 (受講生 11 名 / スタッフ 3 名)
クラス B 参加人数：16 名 (受講生 11 名 / スタッフ 5 名)
総計 30 名
報告：ズッキーニの苗を植えるため、天地返しを行いました。定植後には、菌の侵入を防ぐ意味で、ズッキーニの下に草マルチを敷きました。また、二人一組での共同作業について、「パートナーに優しく声をかけてもらった」など、相手を尊重し感謝する言葉が多くありました。

【6 回目】

日時：2022 年 6 月 14 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：14 名 (受講生 11 名 / スタッフ 3 名)
クラス B 参加人数：18 名 (受講生 13 名 / スタッフ 5 名)
総計 32 名
報告：本日は雨が降りやまなかったため、畑作業は断念し、弁慶果樹園の巨大なビニールハウス内で、就農経験があるスタッフの話を聞くことになりました。高橋さんの就農経験、高木さんの農業アルバイト経験、川上さん日置さん・小島さんの農業に関する経験を聞きました。皆さん真剣に聞き入っており、農業といっても様々な働き方があるのだということを知った、などの感想がきかれました。

【7 回目】

日時：2022 年 6 月 21 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：14 名 (受講生 11 名 / スタッフ 3 名)
クラス B 参加人数：16 名 (受講生 11 名 / スタッフ 5 名)
総計 30 名
報告：オクラの畝の草管理、トマトの草管理と誘引、サツマイモの苗を植えました。ピーマンはすでに大きくなっていたので収穫し、旬を終えたニンジンが花をつけていたので抜き取りました。「野菜を収穫できて楽しかった」など様々な感想を聞くことができました。

【8 回目】

日時：2022 年 7 月 12 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：11 名 (受講生 8 名 / スタッフ 3 名)
クラス B 参加人数：18 名 (受講生 13 名 / スタッフ 5 名)
総計 29 名
報告：オクラの畝に移動して草取り作業を行いました。ニンジンの種まきのため、隣の畝の草を抜いて整地し種まきをしました。ピーマンとトマトの畝も草取りをし、熟した実をいくつか収穫して本日の作業を終えました。集中力や体力の向上を感じられる場面も見られました。

【9 回目】

日時：2022 年 7 月 19 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：13 名 (受講生 10 名 / スタッフ 3 名)
クラス B 参加人数：17 名 (受講生 12 名 / スタッフ 5 名)
総計 30 名
報告：今回は、農家さんの敷地にある畑ということで、多少意識しながら丁寧に草取りをすすめることになりました。ニンジンを抜かないように、また土を動かさないように丁寧に草取りをしました。雨の中での作業は予想以上に楽しいと感じた方が多かったようです。

【10 回目】

日時：2022 年 7 月 26 日（火）14:00 ～ 16:00
クラス A 参加人数：13 名 (受講生 10 名 / スタッフ 3 名)
クラス B 参加人数：17 名 (受講生 12 名 / スタッフ 5 名)
総計 30 名
報告：蒸し暑さが残るなかでの最終回となりました。これまでを振り返っての一言を発表しました。暑かったり雨が降ったりと厳しい環境での作業となることが多かった今期ですが、大変な中でも各々の目標を持ちながら最後までやり抜くことができたことを肯定的にとらえているようでした。草取りの合間にお一人ずつ最後の面談をおこないました。その後、修了式を行い解散となりました。

農業研修プログラム（基礎編）の実施内容　全１０回

【1 回目】永田農園（永田誠さん）

https://nagata-farm.co.jp/

日時：2022 年 8 月 9 日（火）14:00 ～ 16:00

参加人数：11 名 (受講生 6 名 / スタッフ 5 名)

報告：初日は打戻地区の永田農園さんへ。敷地内で運営されている体験農園へお邪魔しました。畑は今年で 11 年目。その場でゴーヤのタネやオクラなどを採って味見をさせてくれたり、ハーブの香りをかがせてもらうなど、農作物を五感で味わう楽しみを教えていただきました。受講生の皆さんは雰囲気の良さや黙々と作業する様子、充実した設備に魅力を感じた方が多かったようでした。

https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/nousui/oishi/interview/post-885.html

やさいの秋葉（秋葉 豊さん）【2 回目】

日時：2022 年 8 月 23 日（火）14:00 ～ 16:00

参加人数：11 名 (受講生 7 名 / スタッフ 4 名)

報告：本日は用田地区のやさいの秋葉さんを訪ねました。畑では数名の女性スタッフが作業しており、その中には農スクール卒業生の姿もありました。本日はサツマイモの収穫をすることになり、受講生はコツを教えてもらいながら、集中して作業を進めました。受講生からは、体力不足を実感した、明るい雰囲気が印象的だったという感想が聞かれました。

【3 回目】ヒロシファーム（宮國大さん）

https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/nousui/oishi/interview/post-973.html

日時：2022 年 9 月 6 日（火）14:00 ～ 16:00

参加人数：9 名 (受講生 6 名 / スタッフ 3 名)

報告：本日は打戻地区のヒロシファームさんを訪ねました。まず初めに、農園の簡単な概要を伺いました。宮國さんは非農家から新規就農され、4 年目となる現在も精力的に規模を拡げていらっしゃいます。今回はダイコンの種まき、畝立てとマルチ張りをさせていただけることになりました。受講生は初めての体験に緊張しつつも、貴重な経験を楽しんでいたようです。

https://www.mameppanouen.com

まめっぱ農園（冨岡義さん）【4 回目】

日時：2022 年 9 月 20 日（火）14:00 ～ 16:00

参加人数：10 名 (受講生 7 名 / スタッフ 3 名)

報告：本日は遠藤地区を中心に営農されているまめっぱ農園の冨岡さんを訪ねました。冨岡さんは、今年で３０歳という若さでありながら、就農４年目であり、畑の規模は東京ドーム１個分にもなるという農家さんです。短期　中期・長期の目標をしっかりと立ててそれに向かってまい進されているとのお話から，自分も見習いたいとの感想が多く聞かれました。

【5 回目】新規就農者（高橋さん）

基礎編トレーナー

日時：2022 年 9 月 27 日（火）14:00 ～ 16:00

参加人数：8 名 (受講生 5 名 / スタッフ 3 名)

報告：本日は、いつもトレーナーとして基礎編に参加している新規就農者の高橋さんが、講師となって寒川町の畑を案内してくださいました。サツマイモを収穫をした後、トラクターの乗車体験をさせていただきました。受講生の皆さんからは，トラクターの乗車体験から運転免許に興味を持った、貴重な体験ができた、などの感想がありました。

【6 回目】ふるうつらんど井上

果樹と野菜の栽培＆直売所を運営

日時：2022 年 10 月 11 日（火）14:00 ～ 16:00

参加人数：１１名 (受講生 7 名 / スタッフ 3 名 / ボランティアスタッフ 1 名)

報告：本日は藤沢市長後で農業を営む、ふるうつらんど井上さんに伺いました。ニンニクの圃場に移動し、植え付け作業を行いました。その後さつまいもの掘り起こしを行いました。「さつまいも堀りは、慣れてできるようになってきた」や「体力がついてきて、作業効率が上がった」など、これまでの蓄積が感じられるようでした。

https://www.shonansatonouen.com/

湘南佐藤農園（佐藤智哉さん）【7 回目】

日時：2022 年 10 月 18 日（火）14:00 ～ 16:00

参加人数：9 名 (受講生 6 名 / スタッフ 3 名)

報告：本日は藤沢市六会地区で農業を営む湘南佐藤農園さんに伺いました。野菜の栽培と直売所、ピザ屋を営まれるなど、農家の２代目として様々なことに挑戦されています。玉ねぎの苗の植え付けを行いました。受講生は集中力を切らすことなく最後までやり切り、集中力の向上が伺え、質問や聞く態度も初回と比べて随分変わってきているなと感じました。

【8 回目】農スクール卒業生との交流会

日時：2022 年 11 月 3 日（木）

参加人数：11 名 (受講生 7 名 / スタッフ 4 名)

報告：本日は雲一つない晴天の中、農スクール卒業生との交流会が行われました。まずは全員で畑の芋掘りを行いました。卒業生の皆さんの優しい受け答えも相まって、とても真剣かつ和やかな雰囲気で進んでいきました。受講生の感想には、いつもよりたくさん質問ができてよかった、芋掘りが上手くなった、話を聞いて農業により興味を持った、など前向きな言葉が多くありました。

https://www.kakiemonn.com/

柿右衛門農園（柿田祥誉さん）【9 回目】

日時：2022 年 11 月 8 日（火）

参加人数：10 名 (受講生 6 名 / スタッフ 3 名 / 見学 1 名)

報告：本日は打戻地区にある柿右衛門農園の柿田さんのもとへ向かいました。ポップコーンの選別作業と野菜セットの入った段ボール箱の最後の締め作業をさせていただきました。その後、サツマイモの収穫をしました。受講生は、農業で働くことの楽しさと大変さを感じ取ることができたようでした。

【10 回目】講話（宮國さん・池原さん・日置さん）と修了式

ヒロシファーム　宮國さん

日時：2022 年 11 月 29 日（火）

参加人数：12 名 (受講生 6 名 (欠席 1 名)/ スタッフ 6 名)

報告：基礎編最終日は、ヒロシファームの宮國さんのご自宅をお借りして講話と修了式をおこないました。宮國さんからは農業を仕事にすることのやりがいと地域活動について、池原さんからは農業に興味を持ったきっかけから転職までの経緯を、日置さんからは金融業界で長年務めた経験から新たな職場で働く際に気を付けたことをお話し頂きました。修了証書をお渡し後、宮國さんより記念にと大根をひとり一本プレゼントしていただきました。ワークノートには、基礎編で自分が変われたことや将来への期待が書かれていました。

令和４年度に作成した成果物一覧

令和４年度 報告書 28P

特定非営利活動法人
農スクール

令和4年度報告書

目次

1. 社会的背景と課題・・・・・・・・・・・・・・ 4
1.1 農業の人手不足 ・・・・・・・・・・・ 4
1.2 引きこもり人口の増加 ・・・・・・・ 6

2.農スクールの活動概要 ・・・・・・・・・・ 8
2.1 これまでの活動軌跡 ・・・・・・・・・・ 8
2.2 令和3年度の活動内容 ・・・・・・・・10

3. 今年度の活動実績 ・・・・・・・・・・・14
3.1 就農支援プログラムの実装 ・・・・・・・14
3.2 活動を通した考察 ・・・・・・・・・・22

4. 今後の展望 ・・・・・・・・・・・・・・25
4.1 複数拠点普及を見据えたモデル構築 ・25

付録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

卒業生のためのステップアップ手帳 16P

卒業生のための
ステップアップ手帳

一歩踏み出すあなたを応援！

発行人：特定非営利活動法人農スクール

受講生向けガイドブック 10P

農スクール
受講生向け
ガイドブック

導入編

農業を食料と職業にできる
社会へ
NPO法人農スクール

トレーナー向けガイドブック 21P

農スクール
メイントレーナー
ガイドブック

導入編

農業を食料と職業にできる
社会へ
NPO法人農スクール

視察・取材向けガイドブック 15P

農スクール
視察・取材の方向け
ガイドブック

基礎編

農業を食料と職業にできる
社会へ
NPO法人農スクール